

〔I〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

「動物に言葉はあるか」と問われたとき、ひとつの答えは、「もちろん言葉をもつ動物はいる」というものだろう。有名なミツバチの8の字ダンスやイトヨのジグザグダンスを挙げる人もいるだろうし、鳥の多様な鳴声について語る人もいるだろう。これらは、情報伝達という観点から言うならば、明らかにコミュニケーションである。そして、コミュニケーションの成立という¹ことで言語の成立を認めるならば、これらの動物たちは言葉をもっているということになる。これに対して、人間の言語だけに備わっていると思われる固有の特質が、さまざまな観点から挙げられもするだろう。ある人たちは、人間がもっている無限の構文能力に注目する。われわれ人間は、いくつもの文を教わり、そこから語を切り出して、さらにそれらの語を組み合わせ²て無数の新たな文を作っていく。そしてまた、そうして作られた新しい文を理解することができる。(1) 動物はそうではない。動物はたんに定型化した反応を示すにすぎない、と。またある人たちは「シグナル」に対する「^Aシンボル」としての言語の働きを述べ立てようとするかもしれない。動物の言葉は状況に^B促された信号にすぎない。だが人間は状況を概念によって捉え、むしろ^C状況をこちらの側から構造化していくのだ、と。

だが、こうした答えを前にして、私にはひとつの^D野蛮な疑問が生じる。もし、無限の構文能力を示さないようなきわめて単純な言葉しか用いない人たちの共同体があったとしたらどうか。彼らは「人間の言葉」を話さないのだろうか。たとえば、鳥の鳴声と同程度の言葉しか話さない人たちがいたとしたら。彼らの発話は信号にすぎないのか、それともシンボルなのか。用いられる言語の在り方だけに注目するならば、この共同体は「人間の言語」をもってはならず、(2) 「鳥の言語」のごときものをもっているとみなされるだろう。だが、ここで私は、まったく逆の答えの可能性を探ってみたい。彼らもまた、単純ではあるが、なお人間の言語を用いている。そう答えてみたいのである。しかし、このように言うと、ただちにこう問い返されるだろう。――では、鳥たちはどうなるのか。鳥たちもまた人間の言語に類するものを用いているということになるのか。――いや、そうではない。鳥たちは「動物の言語」を用い、想定された共同体の人たちは「人間の言語」を用いている。そう言いたい。いわば、差別したのである。だが、これは馬鹿げているようにしか聞こえないだろう。なぜって、この共同体が鳥と同程度の言語を用いていると仮定したのは、ほかならぬ私なのだから。

お湯が沸くと「ピー」という音を立てるうるさいヤカンがある。その音を聞いて、私は火を止めにいく。そのとき、私はヤカンとコミュニケーションを行ったのだろうか。「ピー」という音を聞いて、立ち上がりながら私が、思わず「はい」とか声を上げてしまったのは、あれ

はヤカンと私の会話だったのだろうか。まさか。では、お湯が沸くと「ピー」と鳴くようにインコを^Eクンレンしてみよう。そのインコが「ピー」と鳴いたので私は火を止めにいく。これならば、私とインコのコミュニケーションと言えるだろうか。そう言える気もしないではない。それでは、一人の子どもをヤカンの番人として育てたとしても「言語」という観点のもとで同じ身は火を止めにいく。(3)、いったいこれらは三つとも「言語」という観点のもとで同じ身分とみなされるべきなのだろうか。私はそうではないと思う。三つとも異なったレベルの事例である(あるいは、異なったレベルでありうる)と思うのである。

「ピー」という言葉の使われ方だけを見ているならば、これらは(少なくともインコと子どもの場合) 同じものと言ってもよいだろう。お湯が沸き、「ピー」と言い、それを聞いた者が火を止めに来る。それですべて。何の違いもない。だが、「言語」という概念を明らかにするには、たんにそれがいかに用いられているかを見るだけでは足りないのである。なるほど、「言語」と呼ぶようなものをその機能によって分類し、単純な機能と複雑な機能との間に線を引き、そしてここからは「人間の言語」であるとして分類する、そのような試みにもそれなり(4)はあるだろう。だが、いま私が興味をもっているのはそういうことではない。「言語」とはけつして、たんにあるタイプの機能をもった活動の^F総称ではない。

より正確に問いを立て直そう。ここで問われているのは、「ピュシスとノモス」というギリシャ^Gテツガク以来の古くさい問題にほかならない。ピュシス——自然——と、ノモス——人為、制度、慣習、規範——との概念的対立が、動物の言葉と人間の言葉との対立において見てとられるべきなのだ。「自然」と「規範」とは異なる二つの概念であり、なんらかの量の^H多寡を同列に比較しようるようなものではない。(5)、たんに機能の複雑さに注目して両者を区別しようとするのは筋違いでしかない。きわめて単純な規範的秩序というものもあり、それはあるいは高度に複雑な自然的秩序よりも複雑さという点では見劣りがするかもしれない。だからこそ、「ピー」という音を発するという、それ自体はこれ以上ないくらい単純な事例で両者の違いを考えてみたいのである。^Jコリツして取り出された事例そのものには、何の差異も見出せないかもしれない。だが、両者が位置づけられる秩序が異なっているはずなのだ。ピュシス的秩序とノモス的秩序——両者はどう違うのか。

チンパンジーに人間の言葉を教えるという研究がある。手話を教えたり、カードを用いたり、あるいはキーボードを操作させたりもする。そして、いまやチンパンジーたちの中には教えられていない新しい文を作る能力をもつて人間とコミュニケーションを行うものもあると聞く。だが、こうした実験がたんにより複雑な機能をもった活動の達成をめざすものであるかぎり、私にはさほどの興味はない。冷たい言い方をすれば、サーカスで熊がどのくらい複雑な芸を覚えられるのかという程度の興味しかない。

重要なことは、動物に人間の言葉を教えるとき、彼らをピュシスの存在とみなすか^Kノモス的存在とみなすか、という点にある。そしてもし、チンパンジーの言語習得が複雑なオペラント条件付けの結果であるならば、すなわち、アメとムチによって強化された行動というものであるならば、その成果がどれほど複雑な活動であっても、それは自然^{ピュシス}の秩序に属している。われわれは^L依然として、そのチンパンジーを自然的存在とみなしているのであって、言語規範を共有する共同体の仲間とみなしてはいないのである。

(野矢茂樹『他者の声 実在の声』より)

注 オペラント条件付け 報酬や罰に応じて自発的にある行動をとるよう学習すること。

問一 傍線 E・G・J のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線 B・D・H の読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄 (1) に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア しかも イ また ウ なぜなら エ だが オ だから

問四 傍線 A「シンボル」と明らかに異なる意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 表象 イ 記号 ウ 表現 エ 象徴 オ 符号

問五 傍線 C の「状況をこちらの側から構造化していく」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 概念と概念を組み合わせて、次々と文章をつくっていくこと。

イ 既存の概念をもとに行動し、新しい状況をつくりだすこと。

ウ 概念によって状況を整理し、分析・理解できるようにすること。

エ 置かれた状況によって、適切な概念を使い分けていくこと。

オ ある概念によって捉えた状況を、別の概念によって説明すること。

問六 空欄 (2) に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア もちろん イ それにもかかわらず ウ さすがに エ いったい

オ むしろ

問七 空欄 (3) に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア したがって イ たとえば ウ さて エ けれども オ さらに

問八 空欄（ 4 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 意義 イ 疑問 ウ 定義 エ 思案 オ 趣旨

問九 傍線F「総称」の意味は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 全体の呼び名 イ 同一の性質 ウ 一体化した対象 エ 総合的な判断
オ 定まった区分け

問十 空欄（ 5 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア ところで イ なぜなら ウ また エ それゆえ オ そのうえ

問十一 傍線Iに「それ自体はこれ以上ないくらい単純な事例で両者の違いを考えてみたい」とあるが、筆者がこのように考えるのはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 複雑な自然的秩序より、単純な規範的秩序が重要だから。
イ 自然と規範との違いは、複雑さの違いとはいえないから。
ウ 規範的秩序のなかでも、より単純な秩序を考えたいから。
エ 複雑な事例では、多様な要因が関わってきてしまうから。
オ 自然と規範との差は、わかりやすく、単純な違いだから。

問十二 傍線Kの「ノモスの存在」とは具体的に何か、文章中から十五字の語句を探し、記入しなさい。

問十三 傍線L「依然として」と同じ意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア とりもなおさず イ 相変わらず ウ やむを得ず エ 冷静に
オ かたくなに

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、字数指定のある問いでは、句読点・記号も字数に数える。

ミュージアムという概念が日本語において「博物館」と「美術館」に分極してしまったこと
 によって、ミュージアムという巨大な束概念、統括概念がもつ内包領域を全体として理解する
 方向を閉ざしてしまった。つまり、その各部分の機能のみを御都合主義的に切り取ってしまう
 方向に進ませてしまった。たしかに、西欧のミュージアムという概念は分割可能なユニット概
 念であるが、またそれと同時にきわめて広領域を包括する概念でもある。(1) 「ミュージ
 アム」とは、それぞれの個別的な機能を独立させる一方で、無限に細分化していこうとするも
 のに対して、一定の概念枠を与えようとする統括概念である。

伝統的なミュージアム概念だけでも、自然史ミュージアム、科学ミュージアム、技術史ミュー
 ジアム、植物学ミュージアム(植物園)、動物学ミュージアム(動物園、水族館)、図書館、文
 書館、美術館、歴史博物館、歴史建造物、各種史跡などが含まれる。また十九世紀末から二十
 世紀初頭にかけて新たにこの概念に加わるものに、自然公園(国立公園、自然保護区など)、
 スポーツミュージアム、考古学ミュージアムと考古学遺跡、人類学ミュージアムと少数民族保
 護区などがある。さらに一九八三年以来、ユネスコの国際ミュージアム評議会は、各種科学セ
 ンター、プラネタリウム、特定動植物の保護領域、さらには「世界遺産」をミュージアム概念
 に加えてきている。

西欧のミュージアムとはこのように広領域の概念である。そしてその概念は今なおその概念
 を拡大させていこうとする潜勢力を秘めた動力的なものである。その潜勢力は全世界を自己
 の裡に取り込み、世界を所有しようという一種暴力的な危険性を裡に秘めた概念である。い
 なればそれは全世界を西欧の「世界システム」に組み込んでしまおうとする西欧イデオロギー
 である。そのような西欧のミュージアム概念に対する対応語が、日本では「美術館」と「博物
 館」の二語のあいだで揺れているということは、西欧のミュージアムという魚を一匹丸ごと輸
 入するのではなく、そのつどの必要に応じて切り身の加工品として輸入してきたことを意味す
 る。

(2) 明治以降の日本における西欧のミュージアム制度の受容は、その外形的な^A模倣
 とその運営^B・イジのための技術的なノウハウの学習に終始してきたため、^Cその本質的な「思
 想」にはまったく気づかずにきてしまったということである。食べてみたらけっこう美味で口
 にも合うので、切り身の加工品のままで輸入しつづけてきた魚が、実際に見てみると^D漠然と
 想像していた姿とは違って、とてつもない怪魚で、得体の知れないグロテスクな姿をした、し
 かも^E獐犷きわまりない魚であったというのが、「ミュージアム」という魚の本当の姿である。

ミュージアムとは通常ひとがそう考えているほど静力学的なものではなく、ミュージアムには教養財、文化財、学術資料が満ちあふれ、そこを訪れることは知的な充足、精神的な安らぎ、美的^F享受が約束されるというイメージは、「ミュージアム」という思想そのものが創り出したイデオロギーであるといえる。

ミュージアムとは西欧近代のみが創り出したもつとも西欧的な「思想」であるが、同時にもつとも西欧イデオロギーを感じさせない、きわめて^G巧妙な「制度」である。非西欧圏の地域や国家もいったん、西欧化、近代化への方向を歩みはじめると、「ミュージアム」という制度が西欧イデオロギーの産物であることを忘れてしまう。非西欧圏を含めた全世界を西欧的な価値観で一元化しようとするこのミュージアムという思想や制度を意識するのは、西欧的価値観と徹底的に対立するか、あるいは西欧文化を完全に異文化としてとらえる（3）をもつ場合だけである。たとえば、イスラムの原理主義者たちが、「世界遺産」という「思想」に敵対し、イスラム地域の古代遺跡を訪れる観光客を襲撃するのも、いささか狂信的な仕方ではあれ、西欧的な価値体系に組み込まれることへの拒絶の表われである。また、日本人も明治時代の西欧化以後はミュージアムをネガティブな価値として捉える感性を失ってしまったが、^H明治以前の日本人にとってそれはすんなり受け入れることのできないものであった。その貴重な証言を万延元年の幕府の遣米使節団副使、村垣淡路守範正の『遣米使日記』に見ることができ^Hる。

村垣はワシントンのスミソニアン・ミュージアムを訪ね、そこに歴代のアメリカ大統領の毛髪が額装され展示されているのを見て、西欧人の「礼なき^I此^J一事にて知るべし」とその「礼」の欠如を確認する。そしてさらに別室に進んでミイラの展示にであい、次のようにいう。

こなたの隅に硝子^Kを覆いたる中に人骸の乾物三ツあり、千年を経しものといふ、野晒^Lの如きものにてはなし、肉皮とも乾きて全骸立たり、男女といへど見わけがたし、天地間の万物を究理する故、斯^Mの如きに至るといへど、鳥獸虫魚とひとしく人骸を並て置くは言語に絶たり、額に汗するといふ古語に反覆せり、則^N夷狄の名はのがれぬ成るべし。

村垣のこの感想を、「文明」「科学」「技術」という思想と「ムエンな前近代人の」^O偏狭な優越意識とだけ受け取ってはならない。ここには西欧におけるミュージアムの思想を原理的に批判する論理的思考はたしかに存在していないが、西欧文化を徹底的に異文化として捉え、直感的に違和感を感じとる、すなおな感受性が生き生きと作用している。こんなものを集めるのが西欧の究理、つまり「科学」というものなら、そんな科学はいらない。また、こんなものを人に見せること、つまり「公開」することがミュージアムというものなら、そんなものはいらない。

科学という（4）で死体を平然と衆人の視線にさらす西洋人は、「人倫」という犯すべからざる道德律を無視することに罪悪意識をもたないゆえに、まさに「夷狄」の名をのがれることのできない人種であるというのが村垣の考えである。

村垣は、かならずしも高い理想と見識をもち、また優れた判断力とスルドい観察力に恵まれた人物であったとはいえないだろう。いやむしろ固定観念にとらわれた愚直な人物だったといえる。しかしだからこそ彼のこの感想には価値がある。（5）われわれはミュージアムという制度や施設をひとつの「価値」として捉えることに慣れきっていて、そのネガティブな側面については考えようとしなからである。村垣のこの感想は、ミュージアムというものが特殊西欧的な産物であり、それが暴力的なまでの攻撃性をもつものであることを示している。

（松宮秀治『ミュージアムの思想』より）

注 夷狄 古代中国で異民族を指した蔑称。

問一 傍線B・I・Kのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線A・D・Gの読みをひらがなで書きなさい。

問三 空欄（1）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア つまり イ ただし ウ しかし エ そのうえ オ たとえば

問四 空欄（2）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア それに対して イ というのも ウ いいかえれば エ すると

問五 傍線Cの「その本質的な『思想』」とは具体的に何か、文章中から三十六字の語句を探し、はじめと終わりの五字を記入しなさい。

問六 傍線E「獯猛」と同じ意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

ア 異様 イ 凶暴 ウ 怪力 エ 派手 オ 狡猾

問七 傍線F「享受」の意味は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 甘んじて受け入れること
- イ 要望に合わせて提供すること
- ウ 満足のいく結果になること
- エ 新鮮な体験をすること
- オ 楽しんで自分のものとする事

問八 空欄（ 3 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 合理性
- イ 相対性
- ウ 論理性
- エ 伝統性
- オ 感受性

問九 傍線Hに「明治以前の日本人にとってそれはすんなり受け入れることのできないものであった」とあるがそれはなぜか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 西欧の文化を自分たちのものとは全く異なるものと捉えていたから。
- イ 明治以前からすでに日本が近代化への道を歩みはじめていたから。
- ウ 西欧の価値観は日本の伝統文化をおとしめるものだったから。
- エ 異なる文化に組み込まれることを拒否する伝統があったから。
- オ 西欧の制度がもつ巧妙さに対して自覚的・懐疑的であったから。

問十 傍線J「偏狭」と同じ意味の言葉は次のうちどれか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 頑迷
- イ 奇特
- ウ 裁量
- エ 狭量
- オ 偏向

問十一 空欄（ 4 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 大義名分
- イ 巧言令色
- ウ 空理空論
- エ 流言飛語
- オ 大言壮語

問十二 空欄（ 5 ）に最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア だから
- イ また
- ウ なぜなら
- エ たとえば
- オ さらに

問十三 傍線Lの「特殊西欧的な産物」とはどういうことか、最も適するものをア～オの中から一つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア 西欧という一つの地域のイデオロギーによっているにすぎないということ。
- イ ネガティブな側面を西欧らしく巧みに隠した概念だということ。
- ウ 他に類を見ない西欧固有の文化にのっとって成り立っているということ。
- エ 世界の標準ともいえる西欧の価値観が生んだものだということ。
- オ 西欧の数ある文化の中のある一部分を取り出したものにすぎないということ。

国
語

解答用紙一

[I]

問十三		問十二		問十一		問十		問九		問八		問七		問六		問五		問四		問三		問二		問一	
																						B	E		
																						され			
																						D	G		
																						H	J		

受験 番号		★
----------	--	---

国語

解答用紙二

〔Ⅱ〕

問十三	問十二	問十一	問十	問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
											A	B
											D	I
											G	K
												い

受験番号	
------	--

